

<巻頭言>

田園調布学園大学紀要第8号刊行に寄せて

学 長 さくら 櫻 もと 本 ひかる 光

田園調布学園大学は、福祉を担う人材育成を達成するため、“子どもから高齢者”までのすべてのライフステージにおける福祉を支える人材を教育・養成する社会福祉の教育研究を専門とする大学です。現在2学部3学科の大学で、人間福祉学部と子ども未来学部の2学部、また学科は、人間福祉学部には社会福祉学科と心理福祉学科とを置き、子ども未来学部には子ども未来学科を置く3学科です。

本学は、起源である大正15(1926)年設立の調布女学校以来、来年で90周年を迎え、建学の精神「捨我精進」を実践し、社会に役立つ有為な人材を育成し、地域社会や国際社会に貢献することを目標に、教育・研究に日々邁進しております。

現在、先進諸国は少子・高齢化が進んでおりますが、日本の問題は更に深刻です。欧米と比較して3・4倍の速度で進み、日本の人口は現在の1.2億人から100年間で65%減少すると予想されているからです。高齢者や国民が、安心して生活ができるような医療・福祉対策と国家資格をもった専門家の育成が、国や地域で急務であるからです。昨年、2020年に東京でのオリンピック・パラオリンピックの開催が決定されましたが、フランス・韓国・日本は、中央集権国家であり、地方分権や東京一極集中への影響も懸念されます。就労形態の多様化など社会の変化に応じて、様々な保育サービスが実施されておりますが、女性の社会進出などによる共働き世帯の増加とともに、保育所の定員や入所児童数は年々増加しており、財政難や保育士不足などから受入児童数が需要に追いつかず、受入枠のさらなる拡充が必要となっております。他方、保育士の処遇や保育の質の保証、保育の必要性の判断基準、保育環境に係る最低基準の問題、人口減少地域での定員割れ、保育料の滞納など、保育制度は様々な課題を抱えています。保育サービスの量的拡充とともに、保育サービス全体の充実を図ることが求められています。少子化の進む中、幼稚園利用児童は10年で10万人減少、一方で保育所待機児童が2万6,000人も存在することなどから、既存の幼稚園の活用により保育所待機児童ゼロ、幼稚園と保育園の一元化を目指すとして、「認定こども園」が2006年10月にスタートしました。しかし、国の予想に反して件数は伸びていません。既存の幼稚園・保育所を改編するとはいえ、新たな機能の検討、更なる人員・施設・補助制度の整備など財政的支援が検討されています。

本大学の紀要は、これら山積する諸問題の解決による地域貢献と関連する諸分野との連携によって、教育・研究に資するものとして、更なる発展を期待しています。